

## 指定管理業務評価結果書

### 1. 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	津山文化センター
(2) 指定管理者	所在地 津山市山下 68 番地 津山文化センター内 名称 公益財団法人津山文化振興財団 代表者 理事長 松田 欣也
(3) 公の施設の所管部署	津山市観光文化部文化課
(4) 指定期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
(5) 評価対象期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

### 2. 施設の利用状況

(1) 利用者数等	45,401 人 (前年度 21,721 人)
(2) 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設管理業務</li> <li>・ 自主事業 津山文化センター見学・体験ツアー</li> <li>・ 共催事業 ももいろクローバーZ アルバムツアー～祝典～</li> <li>・ 年間稼働率 <span style="float: right;">92.3%</span> <span style="float: right;">前年度 88.7%</span></li> </ul>

### 3. 収支の状況

(単位：千円)

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額	41,388 千円 (前年度 35,692 千円)
	(内訳)	
	指定管理料	17,875 千円
	指定管理変更	5,132 千円
	利用料金収入	18,070 千円
	その他の収入	311 千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額	43,592 千円 (前年度：35,693 千円)
	(内訳)	
	人件費	12,006 千円
	光熱水費	15,130 千円
	修繕・消耗品費	523 千円
	委託料(施設管理費)	12,131 千円
	事業費・誘客促進費	10 千円
	保険料・負担金・租税公課	1,851 千円
その他	1,941 千円	

4. 総合評価

<p>(1) アンケート調査等の概要</p>	<p>利用者アンケート記入方式による調査実施          調査対象：文化センター利用者          調査方法：施設利用者/利用申し込み時に問い合わせ          鑑賞者/チケット購入時および公演日          回答状況：食事ができるブースを設けて欲しい、会議室用のマイク設備を改修してほしい、駐車場が夜間利用時に暗い、ホームページで各会議室等の空き状況が確認でき便利になった、いつも職員が親切でいねいに対応している など          対応状況：回答をふまえ利用者の利便性が向上するようなサービスを検討し、良好な接客対応を継続する。</p>
<p>(2) 指定管理者の自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸館業務については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり会議室の利用がやや低迷したが、稼働率は前年度より上回り、平年に戻りつつある。</li> <li>・津山文化センターパンフレットを全面改訂し、広く PR するなど利用増加の広報活動を実施した。</li> <li>・利用予約システム（内部管理用）及びデジタルサイネージ（電子案内板）を運用し、利用者の利便性を図った。また、予約情報を一元化したことにより事務の効率化が進んだ。今後、オンライン予約受付の導入も視野に入れながら利用予約システムの運用方法の検討を続ける。</li> <li>・自主事業については感染対策や人数制限を講じて小規模で実施したが、次年度は集客率の高い事業を計画している。共催事業では、準備段階から当日運営までサポートとして携わった。</li> <li>・特定の企業・団体に偏らずに、公平に条例及び施行規則を遵守し、適切な運用に努めた。</li> <li>・館内及び敷地内の巡視、点検を定期的に行い適切に管理した。不具合や修繕箇所が生じた場合は市担当課と情報共有し、対応や修繕等を施し、維持管理と環境整備に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、感染防止に努めるとともに、全国公立文化施設協会・国・岡山県・津山市や業種別のコロナ対策ガイドラインを参考に、独自の対策マニュアルを作成し、主催者と連携しながら安心安全に利用いただけるよう努めた。</li> </ul>
<p>(3) 市の評価</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響がいまだ色濃く残る中で、利用者数や施設の稼働率が上昇していることは喜ばしい成果であり、指定管理者の努力がうかがえる。また、利用予約システムによる事務効率化やデジタルサイネージの導入、アンケートから見える職員の親切な接客など利用者の利便性を重視した取り組みが行えていることは評価できる。</p> <p>電気代等の光熱水費の高騰など支出が拡大する傾向が続いており、収支のバランスをとる難しさが増していく中ではあるが、令和5年度に集客率の高い自主事業を計画しているなど、収入の確保に前向きに取り組まれている。今後も県北の芸術文化の活動拠点として、積極的な取り組みを期待する。</p>